

災害医療体制検討特別委員会

(令和元年度)

災害医療体制検討特別委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 災害医療体制検討特別委員会

委員長 楠 真二

本委員会では、実効性の高い災害医療体制の構築に向けて検討することを活動目的に掲げている。令和元年度は、広島県の災害医療体制の見直し、災害時医療救護活動マニュアルの改訂、災害医療体制確保事業等について、進捗状況を確認し意見交換を行ったほか、集団災害医療救護訓練について協議を行った。また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受けて、第2回委員会については書面開催による報告とした。

[A] 広島県の災害医療体制の見直しについて

厚生労働省からの通知（大規模災害時の保健医療活動に係る体制の整備について／「災害医療コーディネーター活動要領」及び「災害時小児周産期リエゾン活動要領」について）を受け、広島県庁に広島県保健医療調整本部、各保健所に現地保健医療調整本部を設置することとし、各調整本部に災害医療コーディネーターの派遣を要請することとした（図1）。保健所設置市においても、現地保健医療調整本部と同様の機能を有する本部を開設することで了解を得た。災害医療コーディネーターについては、次年度の委員会で協議の上、正式に決定することとした。

[B] 災害時医療救護活動マニュアルの改訂について

現行のマニュアルは平成24年3月に作成されたものであり、以降、平成26年8月豪雨災害、平成30年7月豪雨災害など、大規模災害が発生しており、抜本的な改定が必要と考えられる。厚生労働省からも保健医療調整本部の設置、災害医療コーディネーター等の活動に係る諸規定等の体制整備が求められていることを受け、平成30年7月豪雨災害時に実働した関係者の意見を踏まえて改訂することとした。より実効性のあるマニュアルにするためには、多様な関係機関との調整が必要であり、本年度は構成の立案までとして次年度の委員会で継続審議する方針とした。

[C] 令和元年度災害医療体制確保事業について

今年度の災害医療体制確保事業の実績と研修・訓練の予定について報告した。EMIS（広域災害救急医療情報システム）は、災害時における適切な情報の収集・提供にあたり非常に重要であることから、広島県ではEMIS情報連携強化研修・訓練の開催支援を行っているが、令和2年度も開催を支援するための予算を確保しており、圏域地对協と協議の上、各圏域で支援事業を活用いただくよう依頼した。また、委員からEMIS情報連携強化研修・訓練において、地区医師会単位の委託契約の対象可否について質問があり、広島市連合地对協事務局と協議の結果、連合地对協と委託契約を締結し、連合地对協から各区の医師会の研修に割り当てていただくこととした。

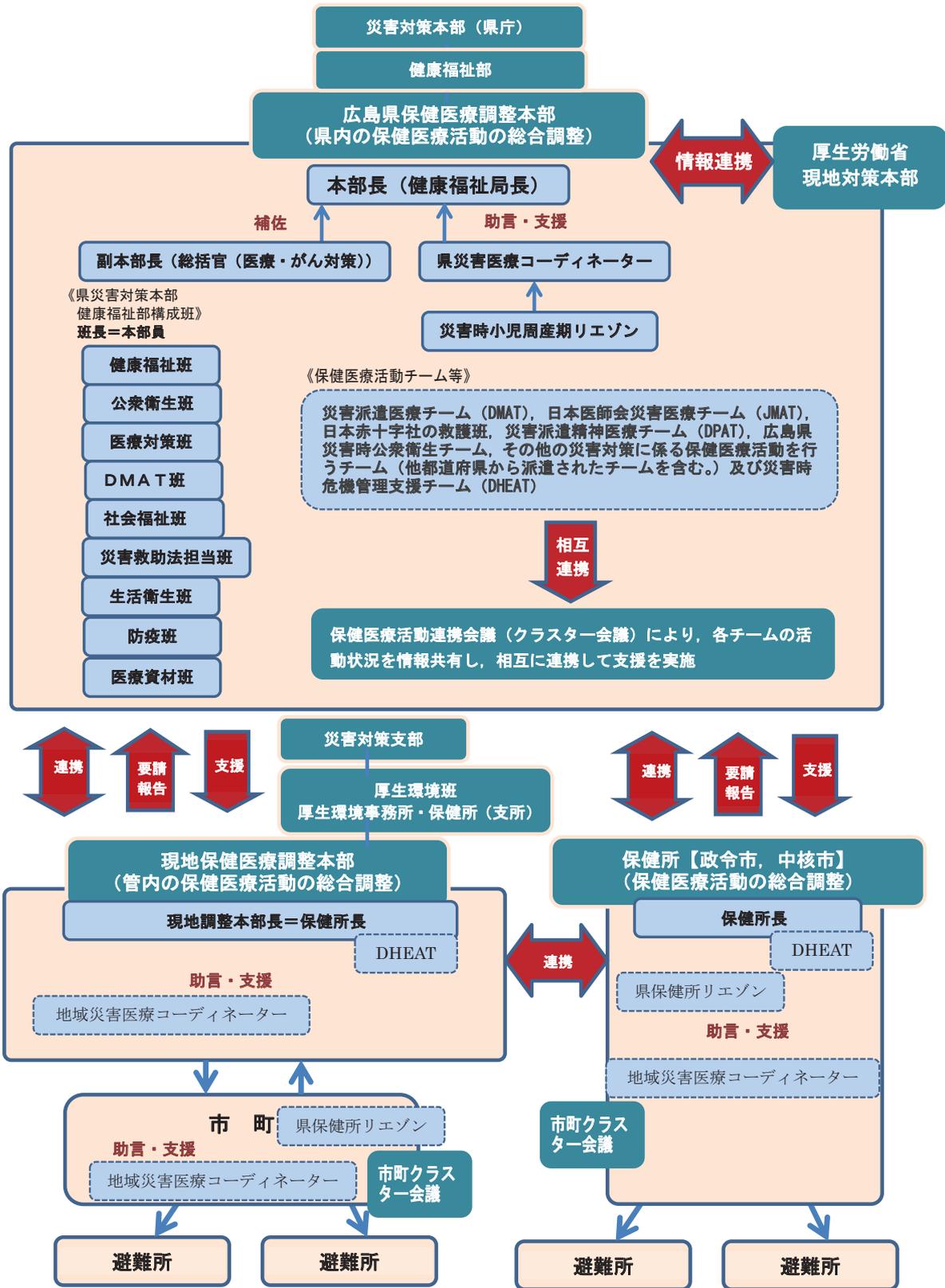
[D] 災害時給水に係る対応について

平成30年7月豪雨災害による大規模断水の際に、給水体制が十分に機能しなかったことを踏まえ、市町の応急給水計画の見直し状況について広島県が実施した調査結果について報告を受けた。EMISへの入力徹底のため各圏域で研修会を開催するとともに、広島県透析連絡協議会と協議の上、災害時の透析医療体制の見直しを行うこととした。

[E] 原子力災害時におけるUPZ内の入院患者の避難先確保について

島根原子力発電所での原子力災害時におけるUPZ（原子力施設から概ね30km圏）内の入院患者の受け入れについて、広島県として応じることを報告した。理由として、中国5県は、災害発生時の広域支援に関する協定を締結していること、南海トラフ地震の際に島根県を含む山陰地方が有力な搬送先となるため相互に協力関係にあることが望ましいことが挙げられた。広島県より、DMATの活動において、UPZ内での活動は島根県で対応すること、今後、患者の

広島県保健医療調整本部の体制図



注) は、本部設置（発災直後）から廃止まで活動

 は、災害の状況に応じて参画又は要請

図1 県保健医療調整本部の体制図

受入体制を検討していくことが補足説明された。

【F】令和元年度広島県集団災害医療救護訓練

平成14年度より各医療圏の持ち回りで実施し、通算17回目となる訓練を実施した。

- (1) 訓練準備WGによる企画（基幹災害拠点病院である県立広島病院の竹崎亨医師、災害拠点病院である広島大学病院の廣橋伸之医師をはじめとする関係者で構成）
 - ① 5月29日（水） 訓練想定、災害想定、準備スケジュールの確認・共有
 - ② 6月28日（金） 具体的な訓練想定、訓練実施エリア、傷病者情報などの検討
 - ③ 9月5日（木） 訓練想定案の振り返りと見直し、近隣住民への広報、参集DMATへの対応などの検討
 - ④ 10月18日（金） 机上演習の報告、訓練当日の流れ、発出文書などの確認・協議
- (2) 訓練日時：令和元年11月3日（日）9：00～14：30
- (3) 場所：市立三次中央病院
- (4) 訓練実施主体：市立三次中央病院、広島県地域保健対策協議会、広島県災害拠点病院等連絡会議、広島県、広島県医師会
- (5) 参加協力機関：三次市、備北地区消防組合、三次地区医師会、NEXCO西日本、広島国際大学、陸上自衛隊 ほか

(6) 参加人数：約365名（病院スタッフ、DMAT、消防救急隊、患者役、見学、その他）

(7) 内容：

- 多数傷病者に対する院内トリアージおよび受入
- 仮想県庁等関係機関との連絡・情報共有訓練
- 災害拠点病院におけるDMATの受け入れ訓練
- 転院搬送

(8) 振り返り

実訓練終了後に検証会が行われた。今年度は初の試みとして、小児周産期リエゾンを導入し、小児周産期想定の子どもの受入と搬送を2例実施した。

病院長からは、DMATと病院災害対策本部との連携が上手くいくように、さまざまなパターンでの本部設置場所を想定する必要があることが述べられたほか、都度、立ち止まってミーティングを行い、情報の共有、まとめを行う必要があるとコメントが寄せられた。

(9) 次回開催

平成31年3月27日より災害拠点病院として指定された広島共立病院で実施予定である。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施を中止したところであるが、感染状況を注視しつつ、令和3年度以降、同病院にて訓練を実施することで調整を進めている。

広島県地域保健対策協議会 災害医療体制検討特別委員会

委員長	楠 真二	県立広島病院
委員	青野 拓郎	広島県薬剤師会
	芦田 雅嗣	広島市健康福祉局保健部医療政策課
	有馬 準一	広島赤十字・原爆病院
	今井 茂郎	呉共済病院
	岩崎 泰昌	呉医療センター・中国がんセンター
	鎌田 耕治	庄原赤十字病院
	久保 富嗣	広島市消防局
	倉迫 昭宏	広島県危機管理監消防保安課
	貞森 裕	福山市民病院
	椎木 滋雄	福山市医師会
	嶋谷 邦彦	広島西医療センター
	志馬 伸朗	広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学
	世良 昭彦	広島市立安佐市民病院
	高杉啓一郎	呉市医師会
	内藤 博司	広島市立広島市民病院
	中川 五男	中国労災病院
	中布 龍一	JA尾道総合病院
	西野 繁樹	広島県医師会
	丹羽 浩之	広島市危機管理室危機管理課
	則行 敏生	尾道市医師会
	浜田 史洋	日本鋼管福山病院
	原田 宏海	市立三次中央病院
	平林 晃	安芸地区医師会
	福永 裕文	広島県健康福祉局医療介護計画課
	藤原恒太郎	興生総合病院
	前田 正人	三原赤十字病院
	村上 信行	広島県薬剤師会
	村田 裕彦	広島共立病院
	森田 悟	東広島医療センター
	山崎 正数	広島県医師会
	山田 博康	広島県医師会
	吉田 研一	JA広島総合病院